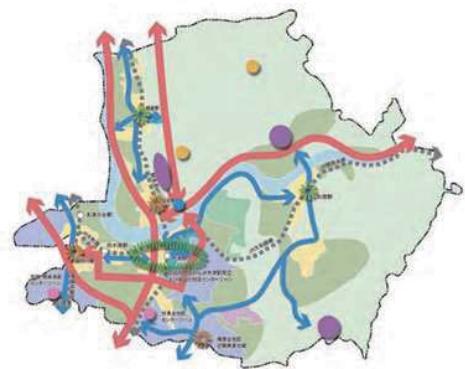
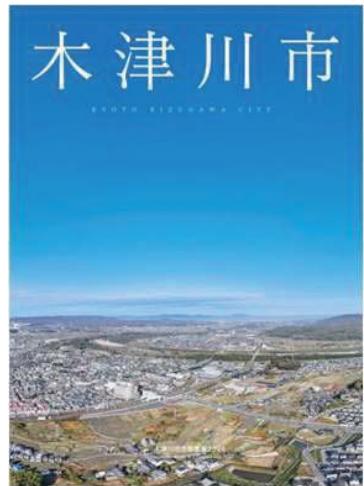


育てたい野菜だけの栽培体験

Future Lab. Kizugawa

自然と都会が調和する街「木津川市」



地域課題

豊かな自然が魅力的な街並みの木津川市だが、将来、高齢化や人口減少により農家の負担増や耕作放棄地の増加が見込まれる。

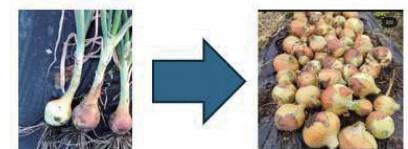
農地管理が不十分であると獣害や過疎化が進み、私達の生活にも影響が出てくることが予想される。

都市部と農地が近接している木津川市だからこそ、「農地」を活用した地域活性化案を検討

数年前に貸農園をスタート



私自身、貸農園を始めてみたことで、野菜をつくる楽しみや自然の恵みの享受だけでなく、新しい人達との繋がりや農知識の深まりなど、若い時から「農」を体験することの価値を知り、この価値を伝えることが課題解決の糸口になるとを考えた。



2023年 玉ねぎのリベンジ成功

2024年

農に関する調査

若年層は「農」に興味があるが時間・支援不足が大きな課題であると考えられた。

外部環境分析(農園利用実態)

Future Lab. Kizugawa

市民農園の使用実態

性別構成：男性62.0%、女性38.0%
年齢層：60歳以上が約80% 最多70～74歳(28.7%)
一緒に作業する相手：配偶者:57.6%(最多)子ども:13.8%友人:7.5%(少數)
都市部では若年層の増加を確認(30～40代、10～30代の順)特にコロナ以降に増加
「体験型・農レジャー」は20～30代で最も興味・参加意向が高い。

高齢者中心。若年層は興味はあるが、継続的参加に課題がある

市民農園の展開可能性 農園利用者の利用状況・ニーズ調査から 2018年
(愛知県立大学 松宮)

外部環境分析(農と時間の関係)

Future Lab. Kizugawa

ニーズ調査

主業農家・準主業農家をやってみたいか n=101
週末農業をやってみたいか n=101

主業農家・準主業農家をやってみたいか	週末農業をやってみたいか
非常にやってみたい 37.6%	非常にやってみたい 35.6%
やややってみたい 25.7%	やややってみたい 18.8%
あまりやりたくない 26.7%	あまりやりたくない 13.9%
まったくやりたくない 0.9%	まったくやりたくない 31.7%

週末農業は主業農家・準主業農家へのネガティブなイメージを解消しているため、やってみたいと回答する人が約30%増加

時間的負担が減ることで農への参加障壁が下がる可能性

スマート農業を活用したベジタリノベーションモデル
2022年(同志社大学 野田)

事業構想案

育てたい野菜だけの栽培体験

育てたい野菜だけを農家の支援付きで畠で野菜栽培を体験できる期間限定のサービス

「期間限定・支援付き」



顧客ニーズ

- 将来、家の畠を継ぐ前の練習に
- 子どもとの想い出づくりや教育に
- どうせやるなら本格的にやりたい

農家ニーズ

- 面積が広くて作業が大変
- 体力的に厳しい

両者間でwin-winの関係を築き、「農」を活性化し、課題解決へ繋げていく

事業内容

Future Lab. Kizugawa

「育てたい野菜だけの栽培体験サービス」

①育てたい野菜を選択

②栽培期間のみ区画をレンタル

③栽培中の支援
講義(栽培前・途中・収穫 3回)
水やり・草抜き・生育状況共有 等

栽培品目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ミニトマト(苗)	●											
リーフレタス			●									
ラディッシュ				●								
ほうれん草					●							
小松菜						●						
ピーマン(苗)							●					
葉菜								●				
オクラ(苗)									●			
枝豆										●		
ニンジン											●	
サヤイシゴト												●
ブロッコリー(苗)												●
カブ												
玉ねぎ(育生品種)												
ニンニク												

事業モデル(仲介型)

Future Lab. Kizugawa

VegeFocus

耕作放棄地対策
攻め所：兼業農家の支援

木津川市
業務協定

兼業農家の情報発信&相談窓口
時間がない・人手不足

農地利用料
余剰の農地貸付

VegeFocus
手数料

顧客
体験費用
栽培体験の提供

主な業務
・栽培プログラムの提供
・農地の空き状況管理 / 顧客管理(態度・満足度調査)
・農家でサポートできない範囲の支援(生育状況確認、細かな支援・講義)